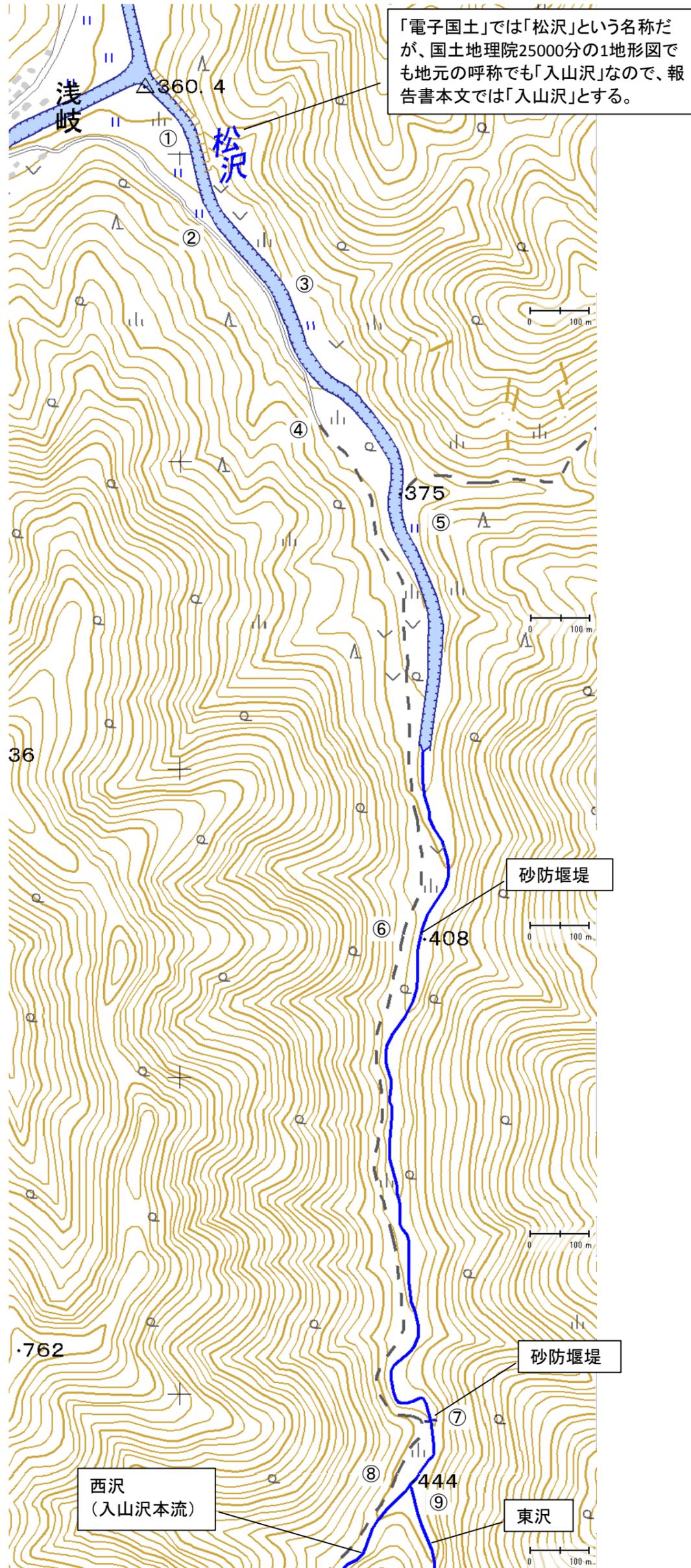


別図Ⅱ-1 入山沢検討区間全体図

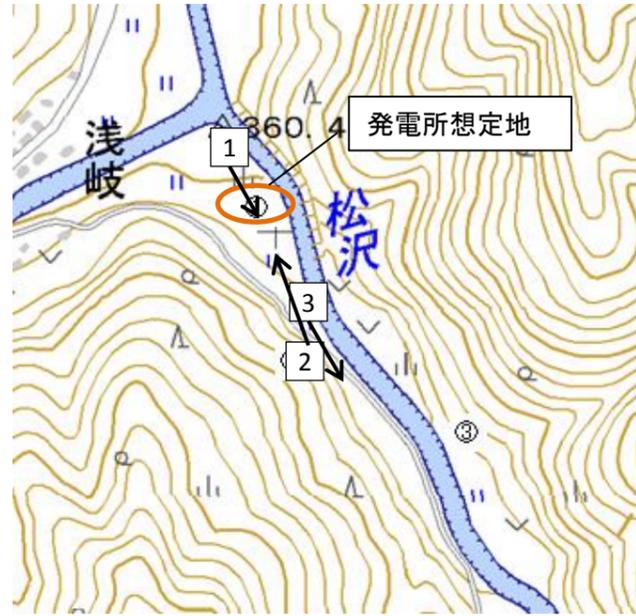


※ 原図は「電子国土」（インターネット）の4500分の1地形図である。

別図Ⅱ-2 ルート想定図



別図Ⅱ-3 発電所想定地点周辺



地図上の四角がおおよその写真撮影位置を、四角内の番号が写真番号を示す。地図には「松沢」とあるが、地元の呼称に従い本報告書では「入山沢」とよぶ。



写真1 正面の小屋の周辺の川辺に建設することを想定した。

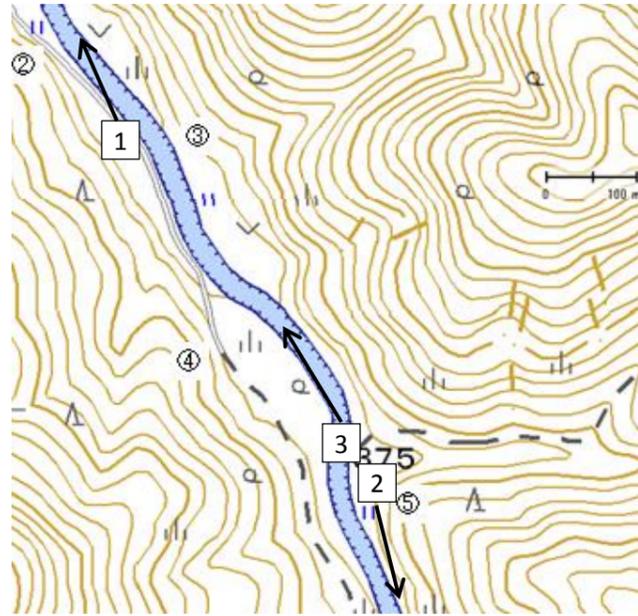


写真2 この付近で道路が入山沢を離れる。水圧管は写真右手の堤防に沿って敷設することを想定した。



写真3 写真2とほぼ同じ地点から上流側を望む。谷が狭くなり、右手の尾根沿いの道路が川と接して上流へと向かう

別図Ⅱ-4 地点⑤の周辺（対岸と農業用水路の状況）



前図と同様、地図上の四角がおおよその写真撮影位置を、四角内の番号が写真番号を示す。



写真1 地点③付近の農業用水取水堰堤。ここで兩岸の用水路に取水し、発電所付近の水田を潤している。発電所の取水が灌漑用水に影響



写真2 地点⑤にある水田の最上流部。写真にわずかに写っている堰堤から右岸に取水している。この水田への影響も写真1と同様である。

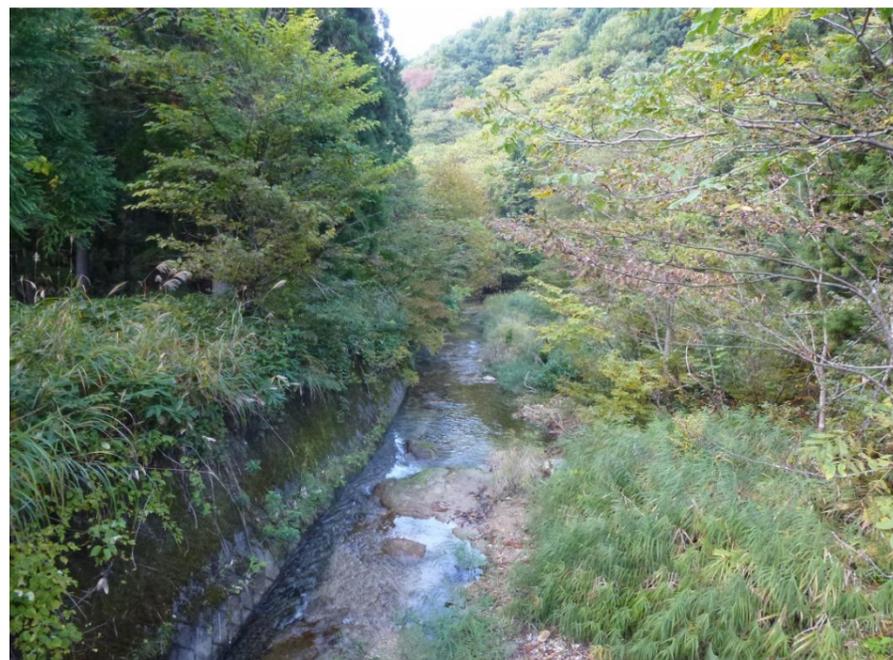
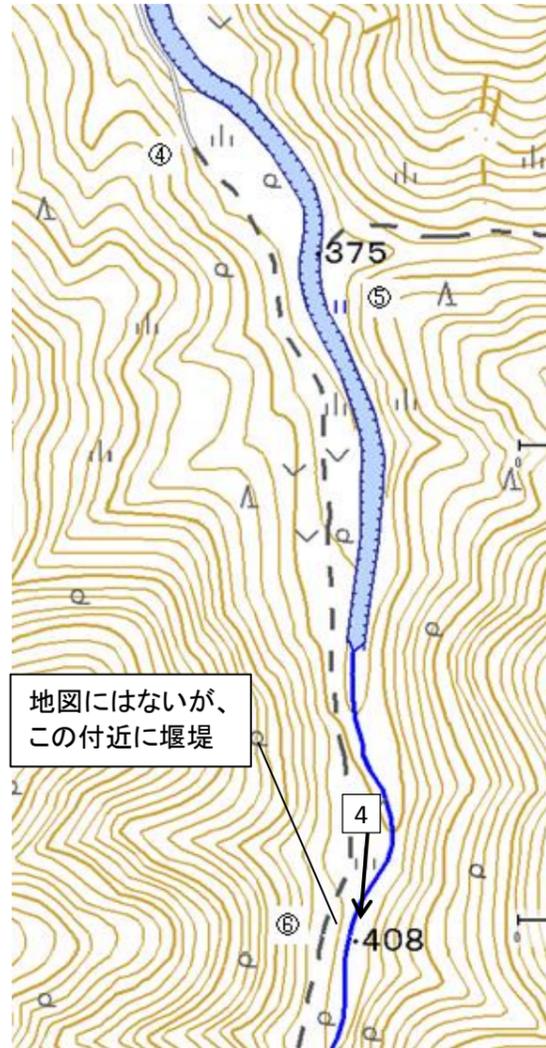


写真3 地点⑤の付近の橋から下流側を望む。

別図Ⅱ-5 地点④～⑥の区間（林道の状況）



本図の写真1～3は撮影位置を特定できなかった。いずれも④～⑥間の林道で撮影したものである。

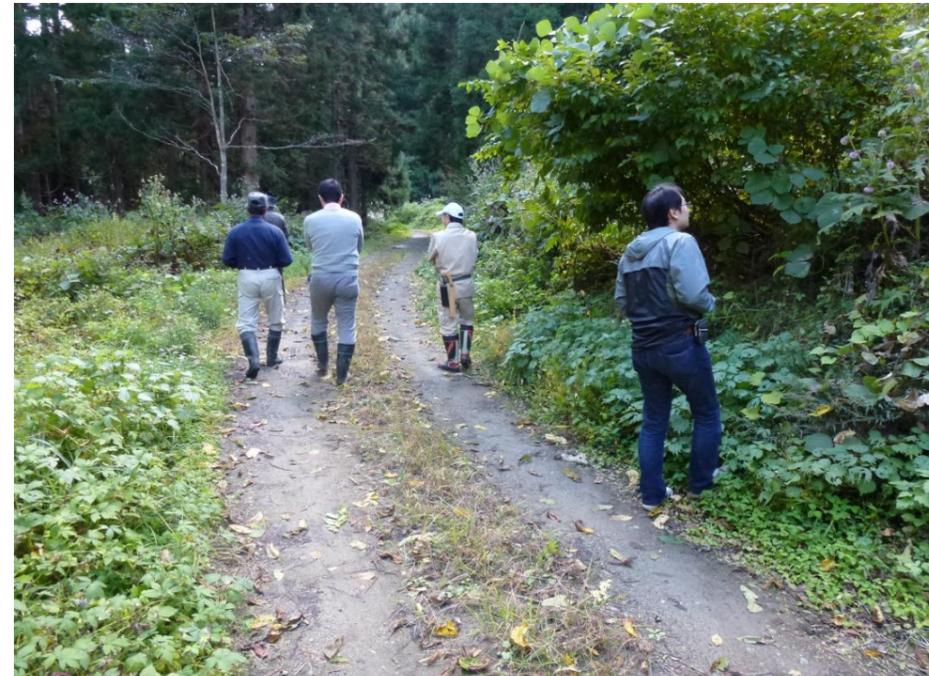


写真1 ④～⑥間の林道はこのように感じで、道も山側斜面も安定しており、水圧管の敷設に特段の支障は見られなかった。水路延長が長くなるので、できる限り敷設工事費を安くする工夫が必要である。地点④では鎖で一般車の進入を禁止している。



写真2 小支流が流れ込む部分が数か所ある。工事費を抑えつつ上手に迂回する必要がある。



写真3 写真2の地点を拡大したもの。



写真4 堰堤⑥を遠望する地点。

別図Ⅱ-6 堰堤⑥の周辺



写真1 取水を想定する堰堤のうちの下流側に位置する⑥。左岸側（写真向かって右）の袖に穿孔し、沈砂池兼上水槽を建設することを想定する。道路と河川間のスペースがやや狭い。水抜き穴を塞ぐ工事も必要になる。

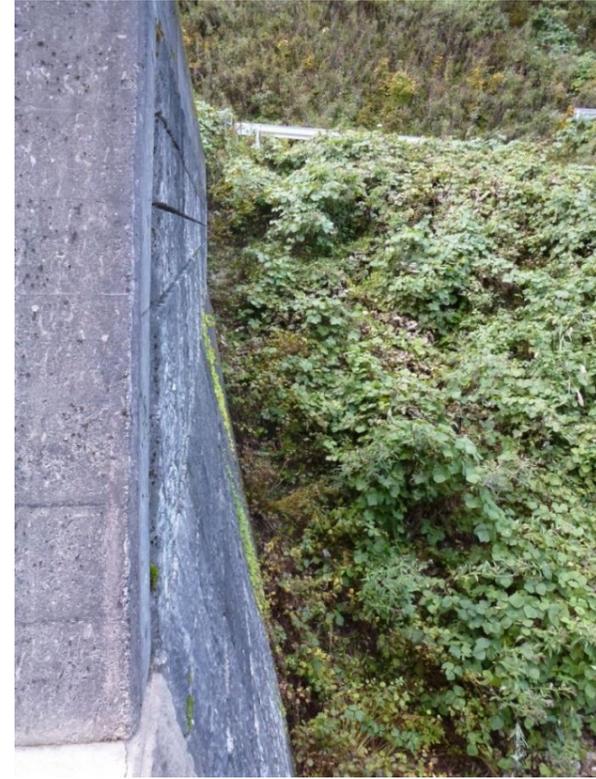


写真2  
堰堤左岸下流側の袖部分。上に林道のガードレールが見える。このスペースに沈砂池兼上水槽を建設する想定である。

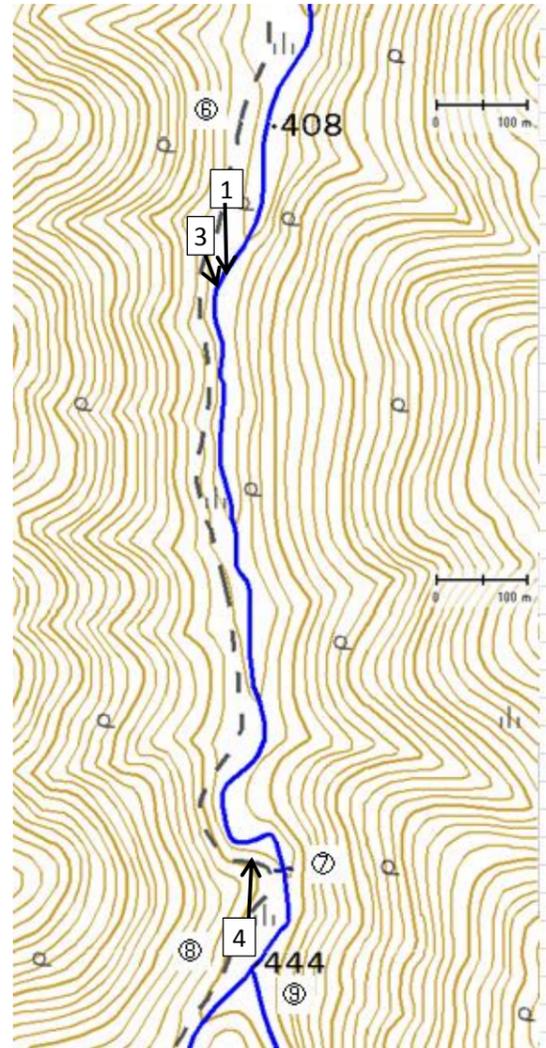


写真3 堰堤左岸側の上流部。満砂にいたっておらず湛水している。堰堤への穿孔や、建設時・建設後の浚渫工事をどうするかといった検討が必要になる。



写真4  
堰堤左岸上流側の袖部分。工事・浚渫用重機の下ろし方などの検討が必要である。

別図Ⅱ-7 地点⑥～⑦の区間（林道の状況）



地図上の四角がおおよその写真撮影位置を、四角内の番号が写真番号を示す。写真3の位置は地図上で特定できなかった。

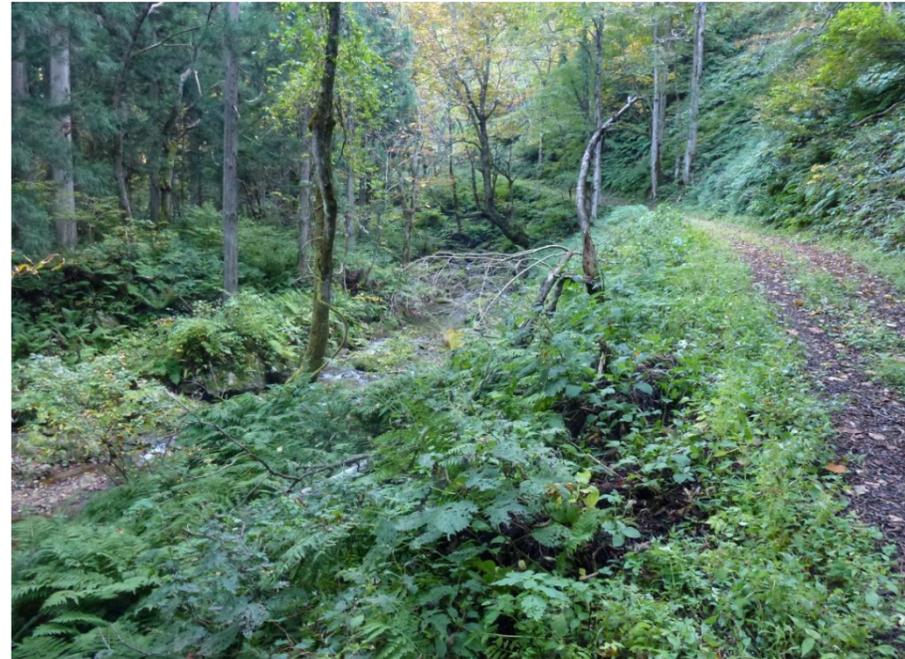


写真1 堰堤⑥から100mほど上流の林道と河川の状況。林道と、山側斜面の状況に大きな変化はなく、堰堤⑦までの間も水圧管の敷設に特段の支障はないと考えられる。



写真3 写真1付近の河川の状況。谷が浅いのは堰堤が影響していると推測される。大きな岩が転がっているため、豪雨の際の崩落や落石には注意が必要である。ただし岩には苔が生え水際まで植物が繁茂しているため、大量の土砂や大岩を出すほどの豪雨はまれであるとも推測される。

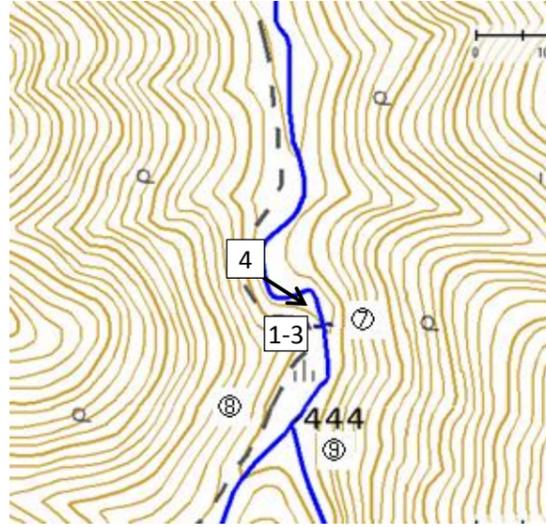


写真2 入山沢に流入する支流の一つ。このような地点は大雨の際に土砂が出るので、水圧管敷設にあたって注意が必要である。



写真4 堰堤⑦付近の林道。④～⑦までの全域を通じて林道周辺の状況はこのように安定しており、工事車両の進入や水圧管の敷設に大きな障害は見られなかった。

## 別図Ⅱ-8 堰堤⑦の周辺



四角内の番号矢印で撮影位置・方向を示したが、写真1～3は堰堤左岸周辺の狭い範囲を写したもので矢印は省略した。  
堰堤の左岸袖部は上流・下流両側とも堆積地盤が接している。



写真1 堰堤⑦。左岸袖部分の上流側は堆積物で埋まり、下流側は旧道と接しているため、穿孔するなどの堰堤工事においては上下どちら側からも容易に工事車両でアクセスできる。



写真2 堰堤⑦左岸上流側。満砂状態の堆積物が安定した土壌を形成し樹木など植物が繁茂している。林道との標高差も1～2m程度で、工事車両進入路を容易に形成できる。取水するためには浚渫して導水路と小規模な池を形成する必要がある。



写真3 堰堤⑦左岸下流側。川辺に旧道が通っていたため、堰堤袖部も林道の2～3m下まで安定した地面があり、沈砂池兼上水槽を容易に建設できると予想される。

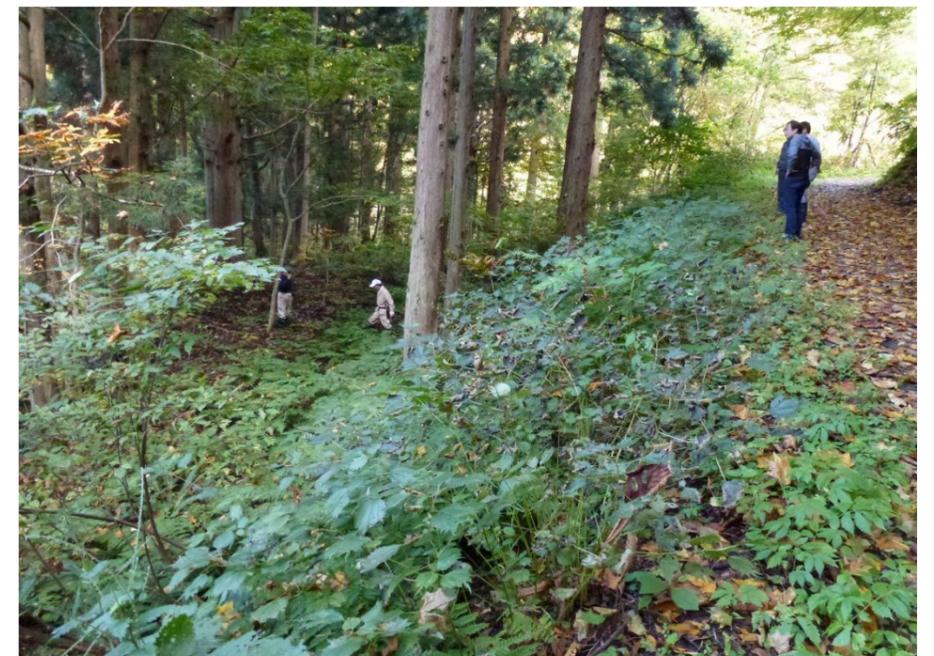
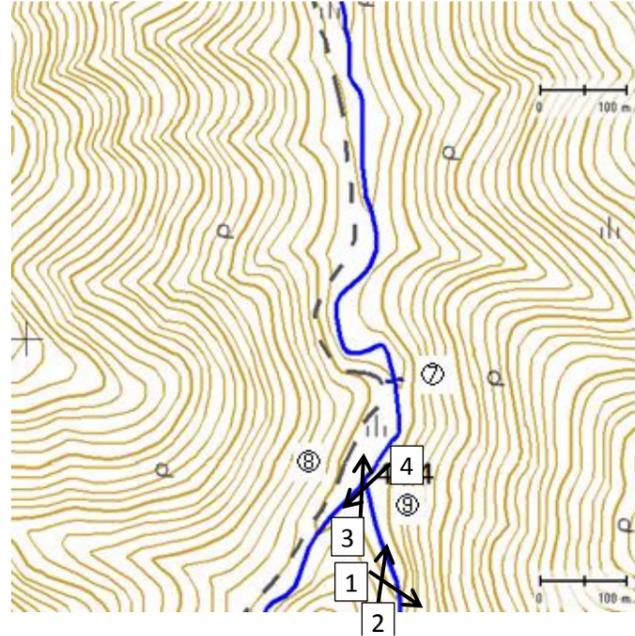


写真4 写真3の数十m下流側の状況。左側の2人が立っている場所が旧道である。工事車両の進入、沈砂池兼上水槽の建設、水圧管路の敷設に旧道を利用することで工事費を低減できると予想される。

別図Ⅱ-9 堰堤⑦の上流側（地点⑦～⑨）



地図上の四角がおおよその写真撮影位置を、四角内の番号が写真番号を示す。下から上に向かって合流している河川のうち、右が東沢、左が入山沢本流（西沢）である。



写真1 合流前の東沢。左下に向かって茶色がかった帯状の部分に水が流れている。白い堆積物は豪雨の際に流出した土砂で、この規模の土石流が発生することに注意が必要である。。



写真2 合流点から十数メートル上流の東沢。この付近の河川敷が平坦なのは堰堤⑦の影響であろう。氾濫原ではあるが写真のような樹齢数十年の木も生えている。

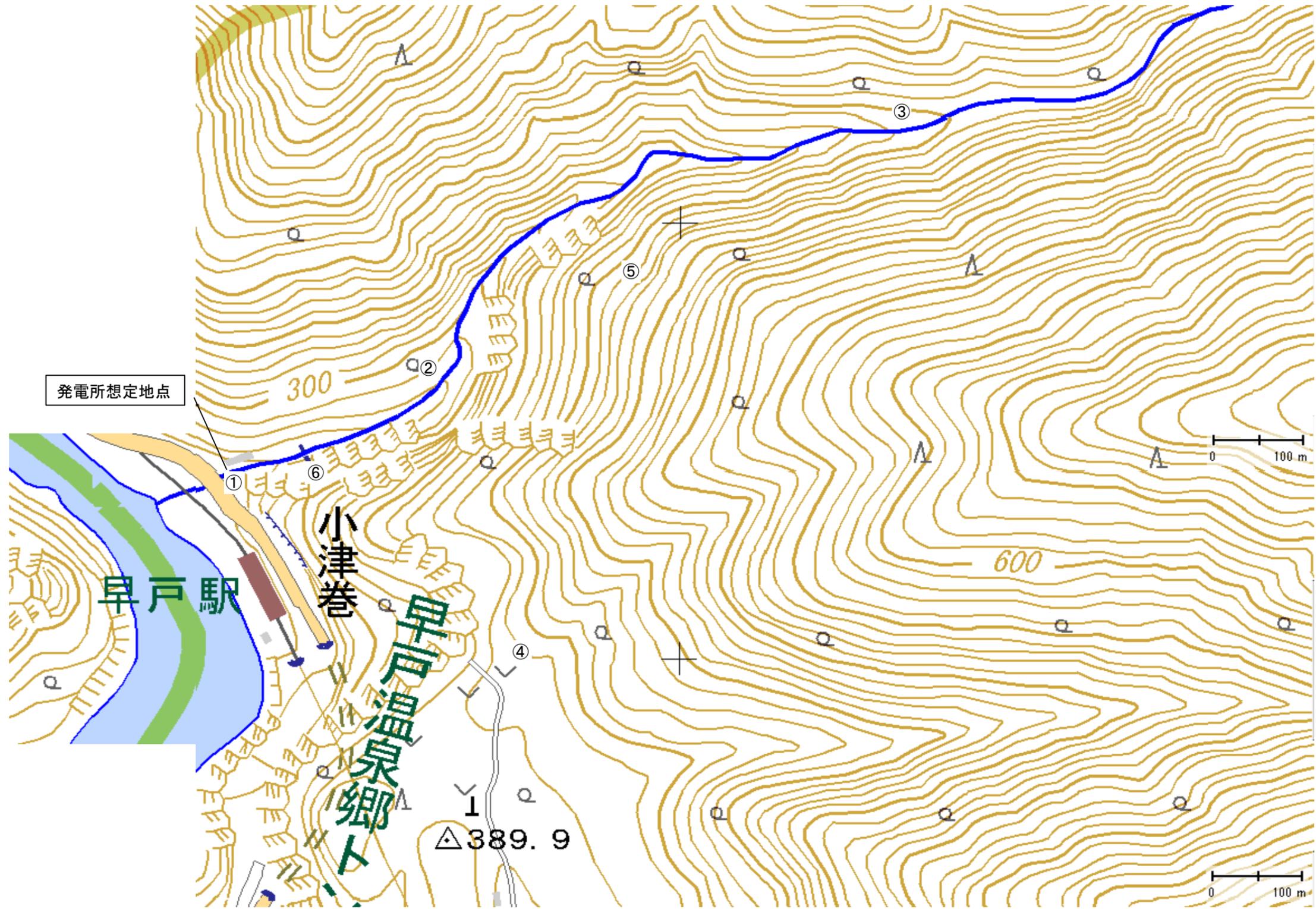


写真3 入山沢本流（西沢／左）と東沢（右）の合流点を上流側から望む。



写真4 写真3と同じ合流点を下流側から望む。この付近一帯は氾濫原であるが、藪になっている。

別図Ⅲ-1 逆瀬川検討区間全体図



※ 原図は「電子国土」4500分の1地形図

別図Ⅲ-2 地点①～②



地図上の四角と矢印がおおよその写真撮影位置と方向を、四角内の番号が写真番号を示す。

写真1・3・4 は2012年8月26日開催の現地見学会の際に撮影したものである。



写真1 下流からアプローチできる最上流部。堰堤の影響で河床が平になっている。兩岸とも陰しく落石が多いので、この付近での取水は困難と判断した。

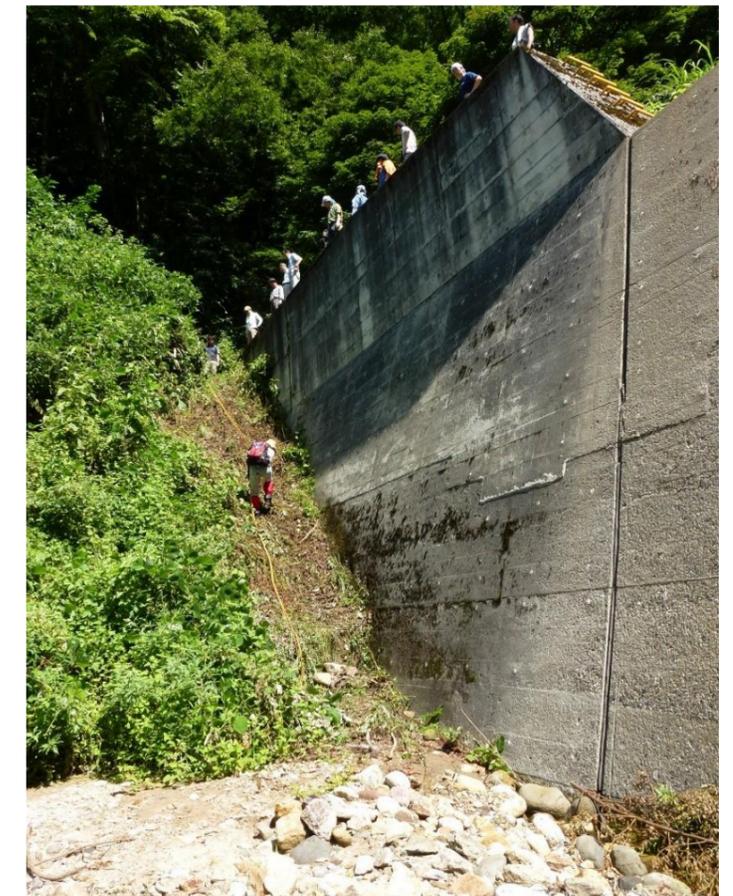


写真2 このような巨岩が転がっており、落石の激しさを推測させる。

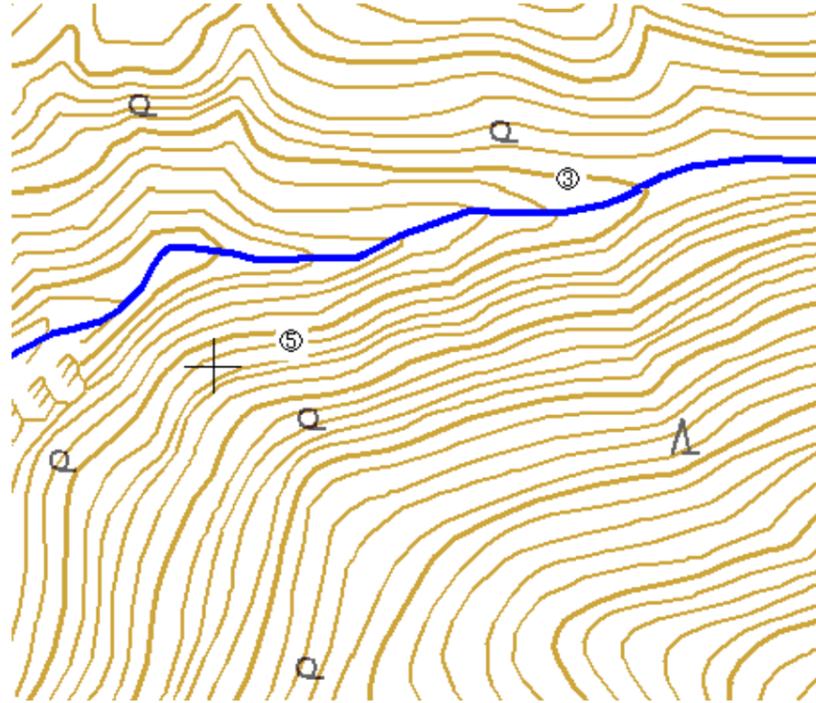


上：写真3 この堰堤の上流側（写真左）を浚渫し、堰堤に穿孔して取水することが考えられる。

右：写真4 写真1～3の地点はこの堰堤の上であり、工事をする場合この堰堤を乗り越えるための工事道路を建設する必要がある。



別図Ⅲ-3 地点③周辺



地点③付近の逆瀬川沿岸の状況を撮影した写真である。



写真1 地点③付近の逆瀬川。深いV字谷を刻んでいて兩岸とも険しい。河川内に多数の岩が転がっており、落石の多さがうかがえる。

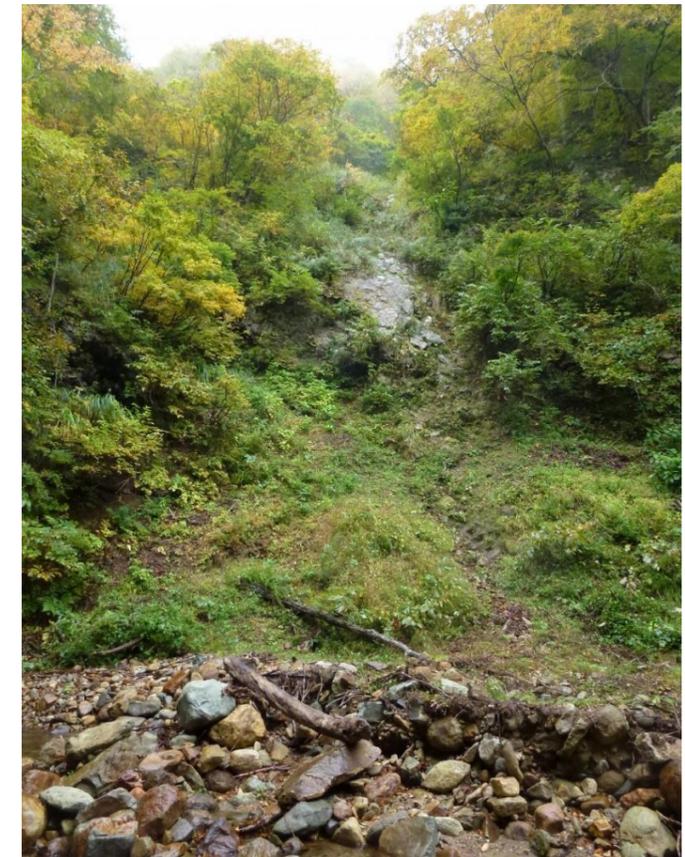


写真2 写真手前の大岩や中央付近の流木のように、落石や崩落の跡を随所に見ることができる。安定した取水は難しく、導水路も破壊されやすいと判断した。

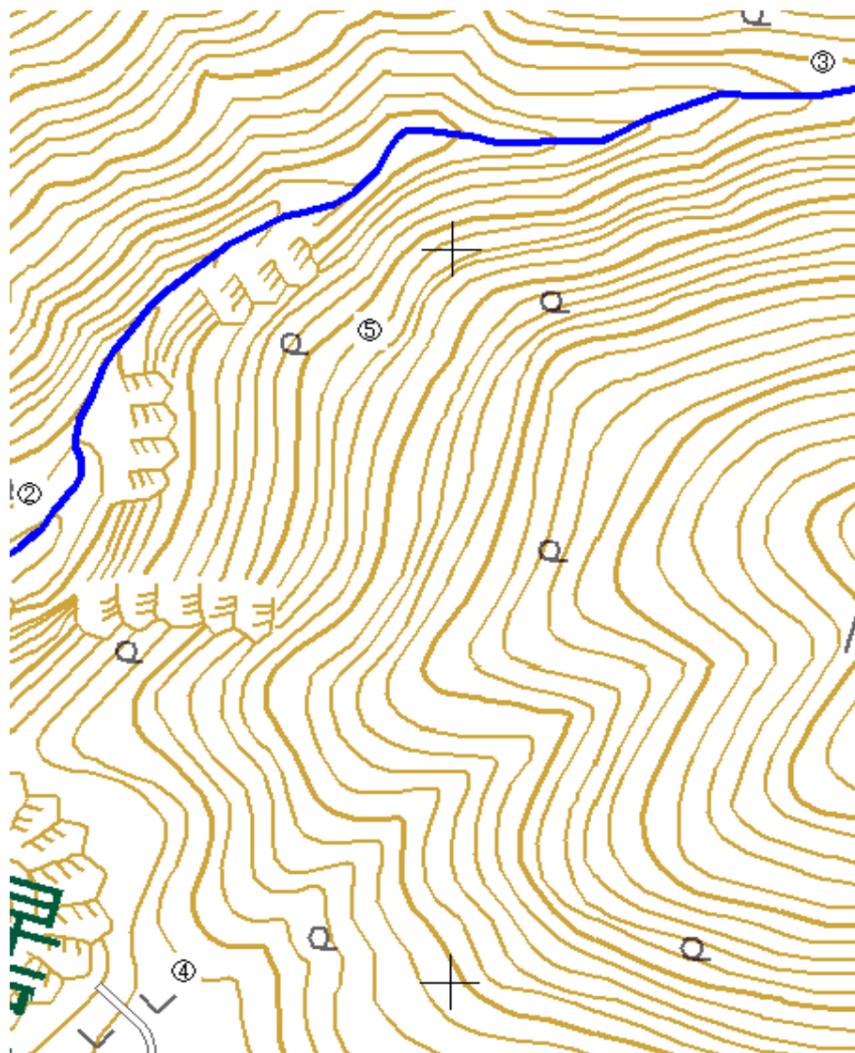


上：写真3 写真中央右より（左岸側）に崩落跡があり、多量の土砂が押し出されている。

右：写真4 崩落跡を正面から。数十m上から崩れていることがわかる。



別図Ⅲ-4 地点④～③（早戸から逆瀬川に下りる山道）



早戸集落から逆瀬川に下りる山道（地点④から⑤付近を  
通って③に至る）の状況を撮影した写真である。

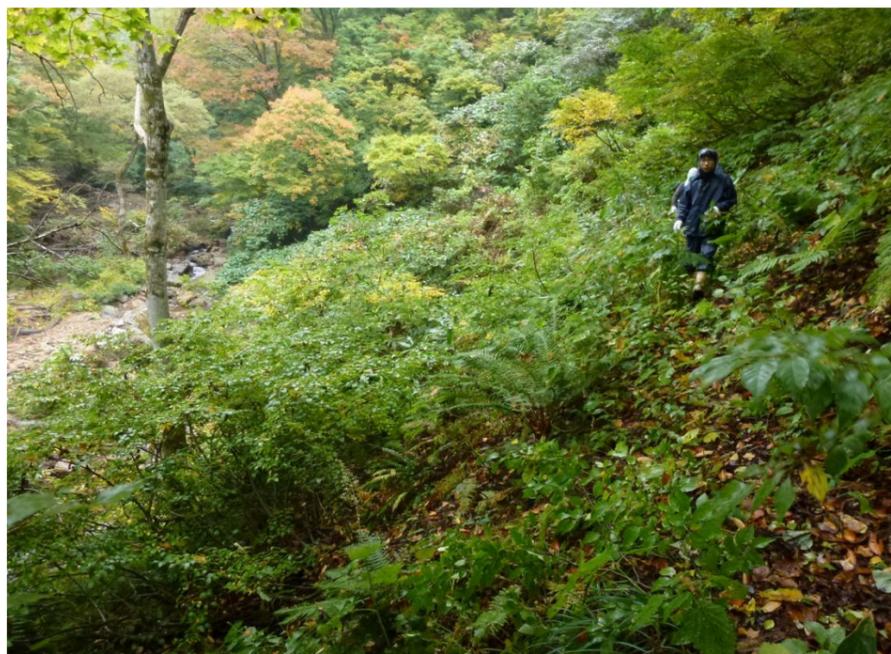


写真1 早戸集落と逆瀬川を結ぶ山道の終点（逆瀬川沿岸）付近。

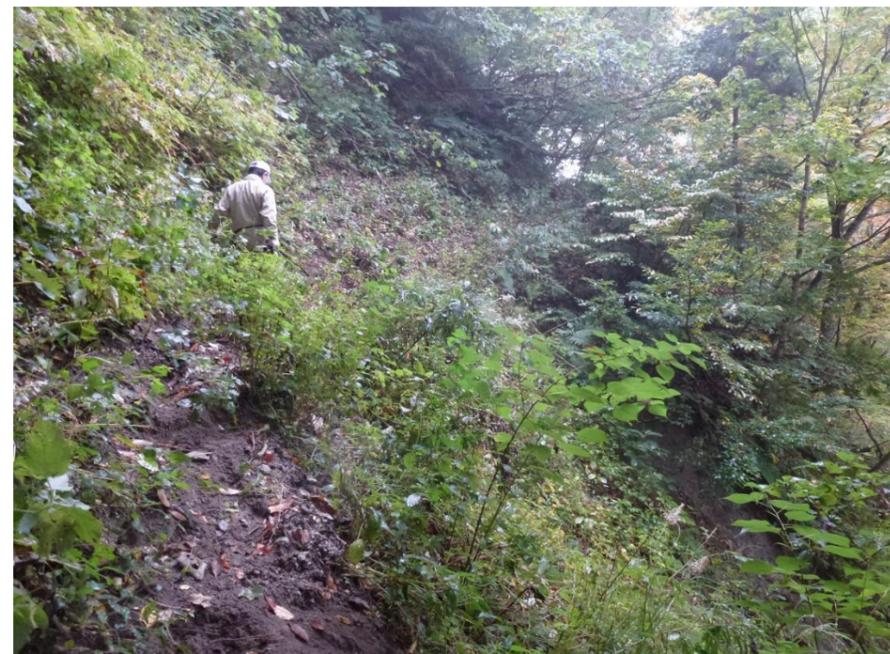


写真2 山道は急傾斜に沿って続く。

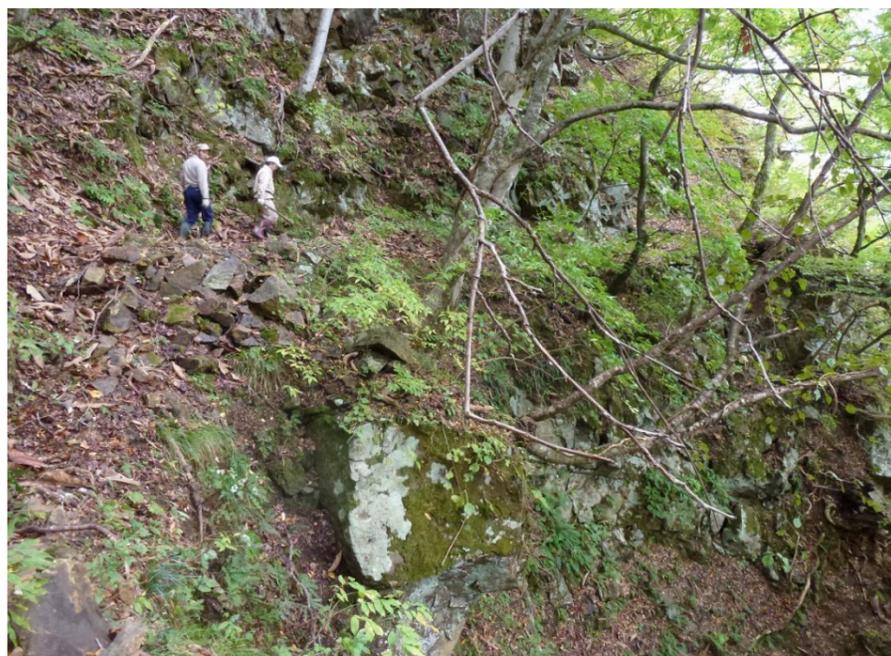


写真3 脆い変成岩のため、岩崩れの跡も多い。表土も露岩も崩れやすい  
ので、小水力発電の事業規模で工事を行うのは困難と判断した。

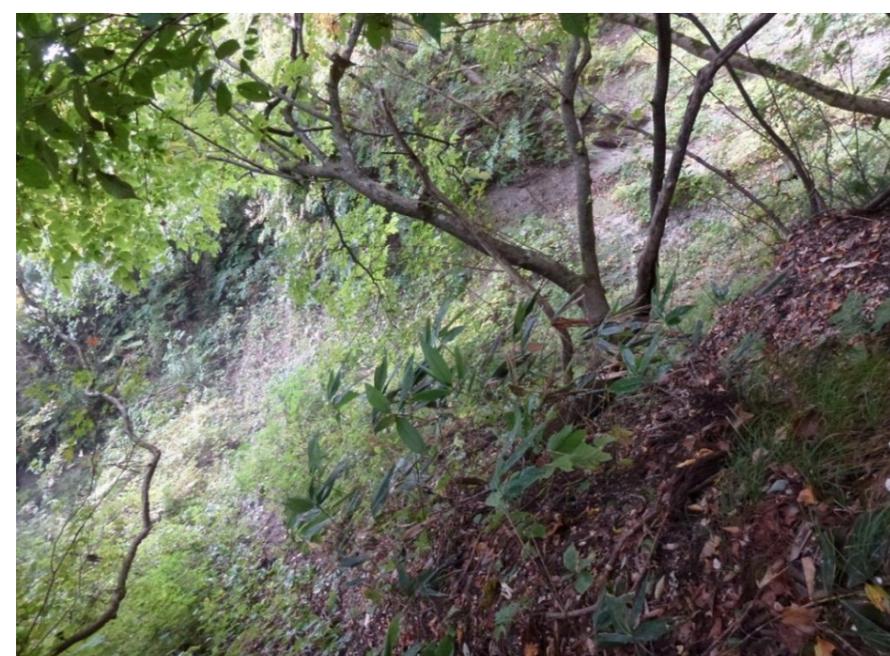
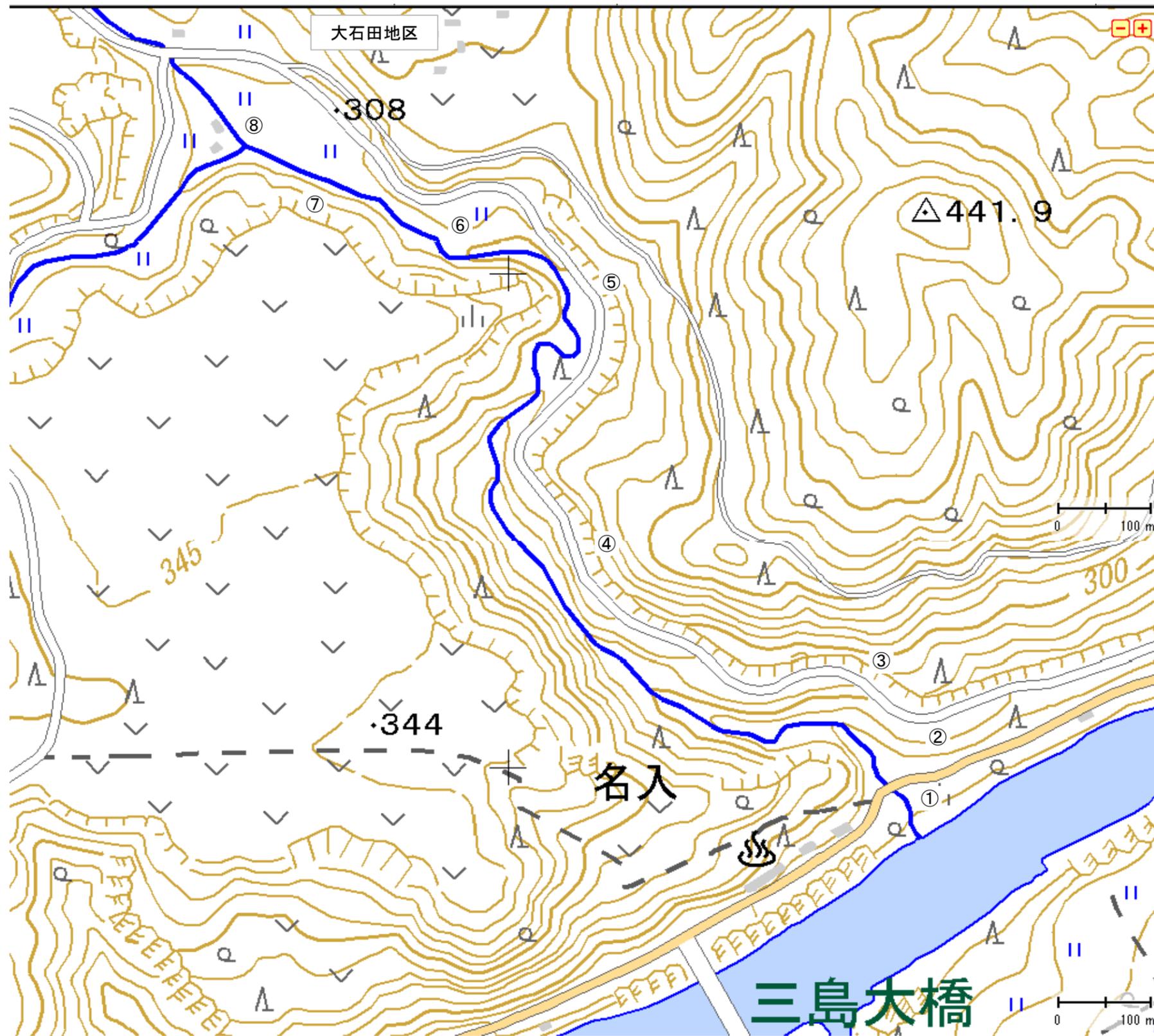


写真3 オーバーハングになっている岩場もある。

別図IV-1 赤谷川検討区間全体図



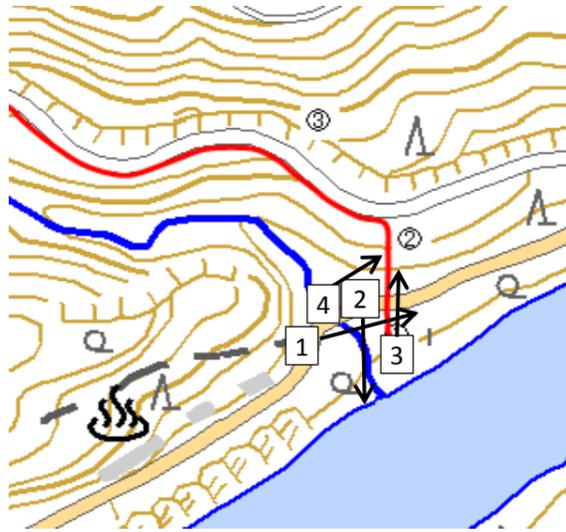
※ 原図は「電子国土」4500分の1地形図

別図IV-2 ルート想定図



※ 原図は「電子国土」4500分の1地形図

別図IV-3 地点①周辺（発電所想定地点）



地図上の四角と矢印がおおよその写真撮影位置と方向を、四角内の番号が写真番号を示す。



写真1 赤谷川対岸から地点①（発電所想定地点）を望む。2011年7月の大水害の際は橋までは冠水しなかったため、発電所想定地点は同程度の災害の際に冠水するかしないかのぎりぎりの標高である。同程度の水害がない限りは問題ないと考えられる。



写真2 発電所想定地点付近から只見川本流を望む。

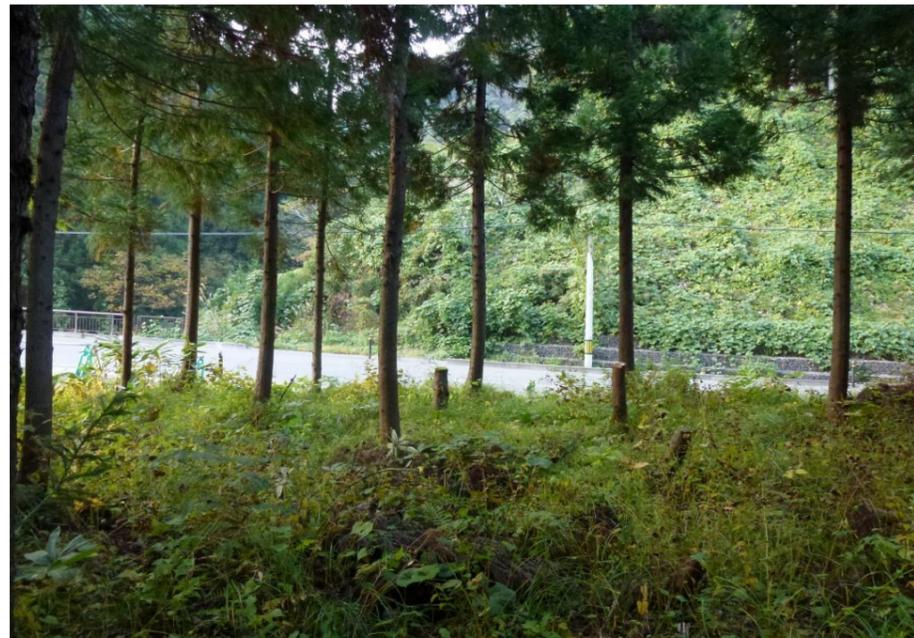
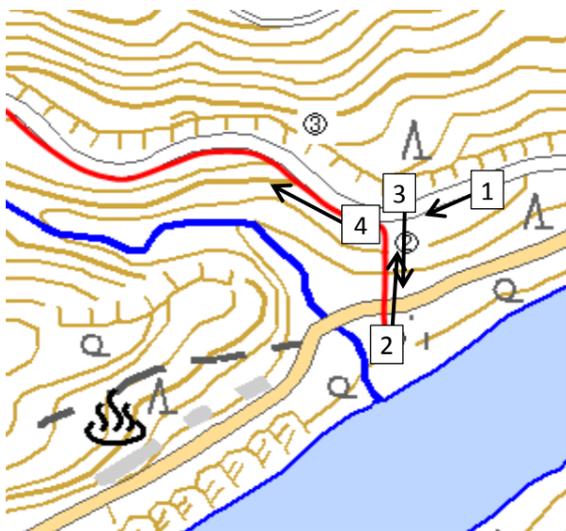


写真3 この林地内での発電所建設を想定した。水圧管路は正面の斜面に沿って下ろし、国道を埋設により横断する想定である。



写真4 水圧管路は画面左上に見える町道沿いを通し、正面の斜面に沿って右方向にある発電所に導く想定である。

別図IV-4 地点①～③の区間



地図上の四角と矢印がおおよその写真撮影位置と方向を、四角内の番号が写真番号を示す。



写真1 書面に小さく見えるカーブミラーの付近まで水圧管路を道路埋設し、左の斜面を発電所に向かって下ろす想定である。



写真2  
写真1のカーブミラー付近を下から見上げる。傾斜は緩くはないが安定した斜面であり上下に道路があることから、工事に大きな支障はないと予想される。

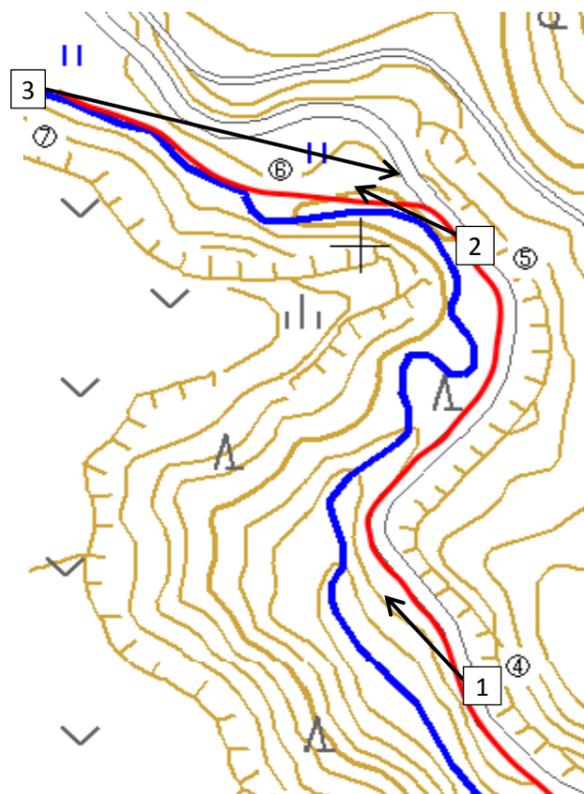


写真3 写真1のカーブミラー付近から下の国道方向を見下ろす。ほぼこのルートに水圧管路を通す想定である。



写真4 カーブミラー付近から上流方向を望む。この町道に水圧管路を埋設する想定である。

別図IV-5 地点④～⑥の区間



地図上の四角と矢印がおおよその写真撮影位置と方向を、四角内の番号が写真番号を示す。  
地点④から全図の地点③までの区間には2か所のロックシェッドがある（写真は撮影していない）。



写真1 地点④付近から上流側の町道を望む。この道路下に水圧管路を埋設する想定である。

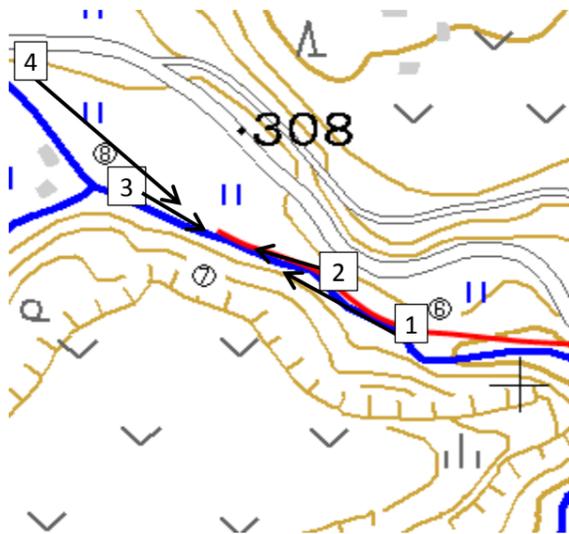


写真2 地点⑤付近から取水口想定地点方向を望む。水圧管路は畦の下などに埋設し、この付近から町道に埋設する想定である。



写真3 取水口建設想定地点付近から町道を遠望する。写真右端のカーブ付近で町道下に水圧管路を入れる想定である。

別図IV-6 地点⑥～⑧の区間



地図上の四角と矢印がおおよその写真撮影位置と方向を、四角内の番号が写真番号を示す。

写真1～3は2011年9月18日撮影。



写真1 取水口建設想定地点付近を下流側から遠望。右上に見える牛小屋より上流側で取水し、水圧管路は牛小屋と川の間から写真撮影地点付近を通して町道に回すことを想定している。



写真2 写真に写っている堰の付近で取水することを想定している。右側に写真1と同じ牛小屋。



写真3 取水想定地点を上流側から遠望。写真1・2の牛小屋が正面に見える。



写真4 写真3よりさらに上流側から、この付近の水田を一望。